

いせさき美尋

び じん

景観サポーター情報紙

トピックス

伊勢崎市景観サポーターの活動に 国土交通大臣「まちづくり功労者賞」を授与

令和元年6月14日に「すまい・るホール」(東京都文京区)で開催された「まちづくりと景観を考える全国大会」で伊勢崎市景観サポーター実行委員会は他の20団体と共に国土交通大臣表彰の栄に浴しました。

昨年の群馬県知事賞に続く栄誉です。伊勢崎市長に受賞報告を行う機会を作ってもらい、その様子はテレビ・新聞・広報いせさきに取り上げられ、私たちの活動の様子が広く市民に伝わったものと思います。

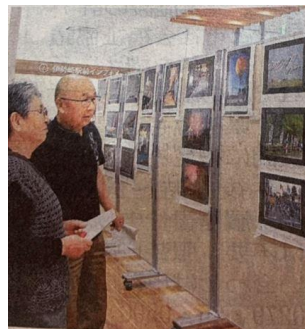
先輩サポーターの皆さんが築かれたこの実績を汚すことなくさらに今後の活動を活性化していきたいと思ひます。



景観作品展

今年も市民からの応募による景観作品展が「これぞ伊勢崎”第2弾”！」というテーマで内容も更に充実し開催されました。

9月22日(日)～10月4日(金)「伊勢崎駅前インフォメーションセンター」及び、10月13日(日)～10月18日(金)までは「市役所の市民ホール」にて、更に11月8日(金)～11月10日(日)は昨年引き続き「境赤レンガ倉庫」での3ヶ所で開催され昨年以上の方の来場がありました。



今年は、更に市民の積極的な参加を目標に、全世帯回覧用チラシの配布や市内の各写真クラブ等の協力もあり絵画作品も含め昨年を大巾に上回る140点の応募を頂きました。

又、初めて上毛新聞にも当作品展の記事が掲載されるなど市民への認知度が大きく広がったと感じています。

内容的にも「これぞ伊勢崎”第2弾”！」と昨年に引き続きのテーマを設定した事により昨年以上に素晴らしい作品を多数展示することができました。

また昨年好評だったイベント(オカリナ演奏会)を今回も開催し作品展の見学と合わせて大盛況となりました。

今後は、応募作品のデータベース化やデジタルサイネージでの公開などの積極的な活用を考えて行きたいと思っています。



景観サポーターとして今年は、昨年の経験をベースに内容の充実を推進した事と、これまでの地道な活動の積み重ねが市民参加の向上に寄与しているものと実感しています。

今後とも景観意識向上により住みよいまちづくりを目指して活動をしていければ良いと思います。

(秋山)

参加者のご感想

- ・子供の頃、たねん淵の東に住んで居たのでなつかしかったです(今は多分河川敷になっている所)
- ・お花や鳥などは全て良かったです。普段見られない景観(絵を含め)をありがとうございます。
- ・天増寺山門を見に行きたくなりました。今後、絵画を多く掲示してほしいです。
- ・良い絵、写真が多く出品され、素晴らしかったです。来年を楽しみにしています。
- ・特に四季の花コーナーがよかった。ごみごみした都会で生活しているので、ほっと癒されます。写真をみて地域の人々同志の助け合い、意思疎通を感じさせられました。地方の方々、おいしい空気景色、宝です。そして、産業も発展していますね。住みやすい伊勢崎頑張ってください。都会に負けるな。
- ・伊勢崎の景観で未だ見てないところが参考になりました。
- ・戦後と現代、駅付近の旧風景と現在の比較写真も見てみたい
- ・せっかくの写真の下の説明?老眼で見えない。もっと大きく。

景観先進都市視察 ～長野市松代～

2019年9月28日は恒例の「景観先進都市視察」が行われました。これは景観サポーターが景観創生・維持活動に取り組んでいる地方自治体を視察・研修し自分たちの活動の参考にすることを目的として設立当初から実行されている事業です。



今年は長野市松代町を訪問し「NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会」の案内で町内の景観と真田家由来の歴史的建造物さらには象山地下壕を見学してきました。ご案内頂いたNPO法人代表の三田様、ガイドの柳沢様に感謝の意をお伝えします。

また、その後の大雨の被害には心からお見舞い申し上げます。

編集部付記

旧「松代町」は長野市と合併して行政上の「松代町」は消滅していますが、今でも通称「松代町」で通用しているようです（WIKIPEDIA）。この点にご配慮を頂き以下の記事をお読み頂ければ幸いです。

松代町の視察研修で感じた事

「NPO法人 夢空間 松代のまちと心を育てる会」の案内で長野県長野市松代町の視察研修をしました。まちの活性化にNPOが組織され活躍していました。伝承館の座学でまち興し活動の説明を受け、松代インターチェンジの開設が、観光客誘致に寄与した事を知りました。ガイドさんの案内で、道路の拡幅、電柱の地中化、十字路の無信号機化、道路の美化、旧町名の復活等の景観対策が、実感できました。長く空き屋であった商家を寺町商家（長野市有形文化財）として活用している事例も見学できました。まちあるきを通して、今ある資産を積極的に活用し、まち全体の価値を高めようという意気込みを感じました。松代町は、往時の城下町の雰囲気の色濃く残り、江戸時代後期の松代藩士兼学者の佐久間象山ゆかりの象山神社や象山記念館もあり、観光資源として地域の偉人も尊敬されている姿には感動を覚えました。戦時中、大本営の移転先として掘られた松代大本営跡が松代象山地下壕として公開されており見学できたのも研修の成果でした。



象山神社境内 銅像群

撮影日：2019年9月28日

(重田)

城下町信州松代を歩いて

私たちが景観先進地視察に長野市松代町を訪れたのは九月二十八日土曜日で気候も良く絶好の視察日和でした。

早速、「まち歩きセンター」三田様より松代町の説明を受け、まちづくりの努力や大変さを聞き、まち並み環境整備事業や歴史的建造物の保存だけでなく利活用の詳細な話を聞き、市が空き家を買って修復保存した地域交流の拠点「寺田商家」へは、武家屋敷の古い石畳を踏みしめ着きました。そこ



で精進料理を食べ、建物内部の匠の技を見て楽しみ、一時の歓談をして、堀や土塀に囲まれた江戸時代の佐久間象山神社を訪れました。最後は第二次世界大戦時に於ける軍部が本土決戦最後の拠点として造られた、大本営地下壕が戦争遺跡として公開され、中は昼でも暗く、その頃の時代が分かる気がしました。この様に松代町は戦国時代、江戸時代と時を経て今があります。私たちにとって有意義な初秋の一日となりました。

(菅谷)

松代のまちづくりに学ぶこと

今回の先進都市視察地である「真田十万石の城下町信州松代」まで、仲秋の上信越道を先輩方の貴重なお話を聞きながら楽しく行ってまいりました。

信州松代は、素晴らしい自然と、城下町として面影が強く残る歴史、文化の薫り高きまちでありながら、その資源を十分に活かせず停滞していたとのこと。「信州松代まるごと博物館構想」の実現に向けNPO「夢空間松代のまちと心を育てる会」を設立し、住んで暮らしやすい、訪れて心癒えるまちづくりを進めているとお話しを

聞きました。町内に点在する文化財を線をつなぎ、松代全体まるごと博物館としてまちを活性化するために、将来に伝え残していきたい寺社や民家を、まちあるきコースに組み入れ歴史的建造物の保存を図っているとのこと。

今回の視察で、伝統的な地域色を視覚で実感したとともに、まちあるきのガイドさんの心温まるおもてなしに深い感銘を受けました。

(大川)



自然、歴史、文化などの地域特性を活かす

まちづくりのコンセプトの違いとして、長野市は地域の都市計画を地域ごとに行うのではなく、市が一括して行なっていました。それにプラスして地域ごとにまちづくりの拠点をつくっていました。

松代町では観光の拠点であるまち歩きセンター「夢空間」が設置され、そこは観光の案内や休息場としての役割を果たしていました。夢空間のコンセプトは、町民と観光客、町と里が連携していく場であり、ボランティア団体が連携できる場でもあります。そして、情報発信も行なっており、このまちのゲート機能として活躍しています。長野市の都市づくりの目標として、

- ・誰もが住みやすく移動しやすいコンパクトなまちにする。
- ・都市の資産を上手に使い再生する。
- ・自然、歴史、文化などの地域特性を活かした長野らしい特色ある地域づくりを図る。

この三つを軸として都市開発を行なっています。



特に松代町は三番目の自然・歴史・文化の面に力を入れており、まち並みの景観は、道路がコンクリートではなく石畳だったり、昔ながらのまち並みを残すために、派手な色の家やお店がなくとても綺麗なまちでした。地域とNPOと行政の連携がとても良く出来ていたところが素晴らしかったです。歩いていると、まちのところどころに真田幸村の紋章が書いてあり、町としてとても誇り高く思っているのだろうと

も感じられました。

松代町の魅力には、まち自身の歴史、文化もありますがそれだけではありません。先ほども話題に出た拠点があることです。まち歩きセンター「夢空間」は、地域の景観を崩さない歴史的文化を守っていききたいとの声が集まり出来たNPO法人です。まちの声が揃ったことで行政との協力や、まちの景観を保つことができました。それだけでなく観光案内のボランティア活動も行なっており、地域に尽くしていました。まちの拠点場所があることによって、地域のコミュニティーが増えるだけでなく団体同士の交流や休息場としても使えより一層まちの活性化を促進できると感じられました。

まとめとしては、まず初めに長野市の方針が骨組みとなって、他のまちごとが自分達の地域の長所や魅力を伸ばして行きました。そして松代町には、その町の拠点がありそこから地域の魅力を発見し伸ばすことができ、今でも地域間の協力により良いまちづくりを行なっています。

伊勢崎市は観光というより、交通の便や住みやすい地域を目指しているように思えます。その方針のまま新たに地域の声を拾い上げ、地域の人同士の交流の幅を広げるべきであると考えます。まちの景観や自然を活かした地域になっていくことを私達も目指していきたいと思えます。

(若狭)

粕川周辺景観まちあるき

令和元年10月20日（日）9：00～11：30

まちあるき見学ポイントまちあるきルート

宮前会館⇒逆堀⇒常勝寺変形板碑⇒旧富士重工レンガのこぎり屋根⇒天増橋供養地蔵尊像⇒天増寺（宝塔・稲垣家墓所・那波小太郎と小次郎の墓）⇒赤城神社石造美術群⇒宮前会館



毎年開催している景観まちあるきですが、今迄には赤石地区（大手町・曲輪町・三光町周辺）、広瀬川河畔（若葉町・三光町周辺）、境地区例幣使道周辺、世界文化遺産田島弥平旧宅周辺など市民の皆様にもなじみ深い地区を選んできました。実際に現地を訪れると車では行けない路地や見過ごしてしまう伊勢崎の歴史を沢山発見することが出来ました。

今回は、あまりメジャーではない粕川周辺に焦点を当ててみました。当日は、天気も良く汗ばむほどの陽気でした。20名ほどの市民の方々と景観サポーターなど30名ほどで秋の粕川周辺を歩きました。

粕川といえば、私達群馬県人にとってのソウルマウンテン赤城山の小沼を源流とした神聖な川です。

古来よりその川の流域では様々な神事が行われ、現在に引き継がれています。伊勢崎市民は、ともすれば曲輪町や大手町、三光町あたりの広瀬川流域に目を向けがちでしたが、私達景観サポーターは粕川周辺に注目してみました。

広瀬川流域は、伊勢崎城（陣屋）がおかれていた歴史的背景より同心町や商家が立ち並ぶ地域で、まさに伊勢崎まちの発祥の地であった事に相違ありません。

一方、粕川周辺の宮前町、東本町などは赤城山信仰の地また、明治から昭和初期には絹産業に係る一大生産地でもあったのでした。

伊勢崎には広瀬川、粕川と一級河川と呼ばれる大きな川があり、それによる水害や分断されてきた時代もありました。ですが、今は憩いの場所として両河川共に私達市民に癒しの空間を提供してくれているように感じています。

謝辞 今回のまちあるきでは、天増寺御住職、赤城神社の神社総代様におかれましては、貴重なお話しそして、お時間を費やしていただき誠にありがとうございました。今後も地域の方々の協力を得ながら共に楽しむ行事としていきたいと思っております。

さて、次回はどの場所を掘り起こすのでしょうか・・・。（佐藤）

粕川周辺景観まちあるき

「伊勢崎市文化財ハンドブック」より抜粋

順序	見学場所の名称	外観	概略の説明
①	逆さ堀（長尾館）		戦国時代に築かれた武家屋敷を囲む堀として建造されたものです。西側の一部は南から北へ流れることから「逆さ堀」と呼ばれるようになりました。北の方角へ流れる堀の一部を地元のボランティア団体が維持管理しており伊勢崎市の歴史的景観として親しまれています。
②	スバル360 誕生の地		世界的に評価された軽自動車「スバル360」を最初に生み出した工場です。このレンガ壁は第二工場の東側壁面で竣工当初の状態が良く保たれているためモニュメントとして平成15年（2003年）5月にこの地へ移築保存された産業遺産的景観と考えられます。
③	天増寺橋 供養地蔵尊像		橋供養地蔵尊像は粕川にかかる天増寺橋の無事を願い、宝暦12年（1762）に建立されました。橋には人や物資の往来のためと、現世と来世を結ぶものという考え方もあり、当時の人々の願いや信仰の様子が判ります。
④	天増寺宝塔		この宝塔は全体的に風化や摩耗の具合も比較的少なく、ほぼ原形を伝えています。相輪は宝珠の下に大きな水煙を持ち屋蓋は高さ40cmに対し軒口の厚さは12cmと重厚で穏やかな反りがあります。貞和2年（1346）の造立年が刻まれており、市内にある在真銘の宝塔では最古で最大のものと思われる。
	那波小太郎・ 小次郎の墓		戦国時代末期造立の小さな宝篋印塔。赤石城主那波駿河守頼宗（あきむね）は、豊臣秀吉の小田原攻、天正18年（1590）に加わりました。その留守を那波小太郎18歳、小次郎16歳の兄弟が守っていたが、その隙間を東方より攻めてきた敵（太田の由良氏と考えられている）に滅ぼされ若い二つの命を散らしました。
⑤	稲垣右衛門長茂の墓 付 累代の墓所		稲垣長茂は慶長6年（1601）に伊勢崎一万石の大名になった人で、入部すると伊勢崎城を中心に城下町として町屋の形成や領内の検地を行い新田開発に努めました。また、天増寺を建立して菩提寺と定め慶長17年に没すると墓を天増寺に営み、その後の稲垣家代々の当主は墓を天増寺に営みました。
	下植木赤城神社 石造美術群		境内には鎌倉から室町時代にかけて石造塔婆等が十数点ありましたが、現在は屋舎内にまとめてあります。中央の宝塔二基と左側の石幢一基が県指定重要文化財に指定されています。何れも13世紀から14世紀に建立されたものと推定されています。

日時：令和元年（2019）10月20日
主催：伊勢崎市景観サポーター実行委員会

参加者のご意見

(順不同、原文のまま)

- ・大変勉強になりました
- ・伊勢崎の歴史を知ることができた。サポーターの方、ごくろうさまでした。
- ・今後、又、ぜひ参加したいです
- ・ほとんど初めての場所を訪れたので楽しく学習できました。皆様大変お世話になりました。
- ・今まで知らなかった名所、旧跡を新たに知ることができ、とても有意義でした。これからも、新しい企画を楽しみにしています。一日、ありがとうございました。
- ・もう少しスピードがあっても良いかな。初回ですが楽しかったです。
- ・よそ者なので、伊勢崎のことを聞けてよかった
- ・つかれたけれど、自分が知らなかったことが知れて良かった。
- ・知らないことも知れてよかった
- ・地元だけれど、知らないことがたくさんあるということを感じた。ありがとうございました。
- ・ちょっとつかれたけど、知らないところを見ることができたので良かったです。楽しかったです。
- ・あらためて、まちあるきをしてみると、新しい再発見があったと思います。



参加者の皆様

景観サポーター情報紙「いせさき美尋」とは？

美尋の「美」→多方面から考察した美しいもの。「尋」→素晴らしい景観を尋ね求める。対象物の本質の探究。景観サポーターは、伊勢崎の自然、歴史、地域文化、先進性等景観の大切さ・素晴らしさ・美しさを多方面から尋ね(美尋)、景観の価値を学び・発見すべく研鑽を重ね、その発表の場を「いせさき美尋」と名付けました。

編集後記

今回の編集で百人の前に百の景観があると実感しました。松代町の視察も大変参考になりました。「いせさき美尋」に込められたメッセージを再認識した次第です。編集部：重田、加治屋、佐藤。

発行／伊勢崎市景観サポーター実行委員会

『いせさき美尋』景観サポーター情報紙第12号

令和2年1月28日発行

連絡先 景観サポーター実行委員会事務局

☎ 0270-27-2767